

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3227737号  
(U3227737)

(45) 発行日 令和2年9月17日(2020.9.17)

(24) 登録日 令和2年8月26日(2020.8.26)

(51) Int.Cl. F 1  
A 4 1 D 13/11 (2006.01) A 4 1 D 13/11 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2020-2186 (U2020-2186)  
(22) 出願日 令和2年6月7日(2020.6.7)(73) 実用新案権者 505157212  
中村 佳代子  
東京都町田市小山町2615-5  
(74) 代理人 100088063  
弁理士 坪内 康治  
(72) 考案者 中村 佳代子  
東京都町田市小山町2615-5

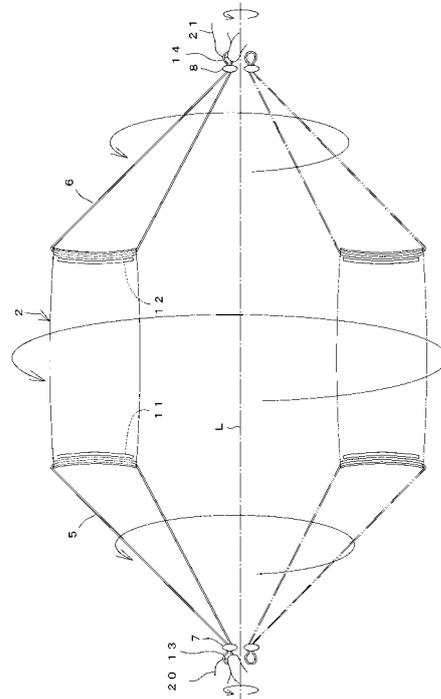
(54) 【考案の名称】 衛生マスク

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】着用時に冷感が得られる衛生マスクを提供する。

【解決手段】衛生マスクは口と鼻を覆うマスク本体2と、マスク本体2の左端部及び右端部に各々、設けられた左耳用耳掛け紐5及び右耳用耳掛け紐6を備えている。マスク本体2は全体が接触冷感用繊維素材により形成されている。マスク本体2の左右端部の縦方向に沿って各々、弾性を有する形態保持部材11、12が付設されている。汗等の水分を含んだ衛生マスクの左右の耳掛け紐5、6の端部を各々、左右の手の指20、21で掴み、左右の手の指20、21を結ぶ方向に延びた軸線Lの周りに偏心回転させてマスク本体2を略円軌道に沿って周回させて振り回すと、気化熱が奪われてマスク本体2の温度が下がり、冷感が得られる。周回後、マスク本体2は形態保持部材11、12の変形反力により、丸まることなく元の形状に戻る。

【選択図】 図3



**【実用新案登録請求の範囲】****【請求項 1】**

口と鼻を覆うマスク本体と、マスク本体の左端部及び右端部に各々、設けられた左耳用耳掛け紐及び右耳用耳掛け紐を備えた衛生マスクであって、

マスク本体の全部が接触冷感用繊維素材により形成されているか、または口元周りと接触する部分を含む一部が接触冷感用繊維素材により形成されており、

マスク本体の左端部と右端部の縦方向に沿って各々、弾性を有する形態保持部材が付設されていること、

を特徴とする衛生マスク。

**【考案の詳細な説明】**

10

**【技術分野】****【0001】**

本考案は衛生マスクに係り、とくに着用時に冷感の得られる衛生マスクに関する。

**【背景技術】****【0002】**

コロナウィルス感染の予防のため、外出時に衛生マスクの着用が必須となっている。夏季は外気温が高く、日射も強いいため、口元に装着した衛生マスクが暑くなり、息苦しくなったり、不快感が強くなって衛生マスクを外してしまう恐れが強い。

**【考案の概要】****【考案が解決しようとする課題】**

20

**【0003】**

本考案は上記した従来技術の問題に鑑みなされたもので、着用時に冷感が得られるマスクを提供することを、その目的とする。

**【課題を解決するための手段】****【0004】**

請求項 1 記載の衛生マスクでは、

口と鼻を覆うマスク本体と、マスク本体の左端部及び右端部に各々、設けられた左耳用耳掛け紐及び右耳用耳掛け紐を備えた衛生マスクであって、

マスク本体の全部が接触冷感用繊維素材により形成されているか、または口元周りと接触する部分を含む一部が接触冷感用繊維素材により形成されており、

30

マスク本体の左端部と右端部の縦方向に沿って各々、弾性を有する形態保持部材が付設されていること、

を特徴としている。

**【考案の効果】****【0005】**

本考案によれば、夏場や梅雨の時期などで、水、汗等の水分を含んだ衛生マスクの左右の耳掛け紐の途中または端部を各々、左右の手の指で掴み、左右の手の指を結ぶ方向に延びた軸線の周りに、左右の耳掛け紐を掴んだ指を偏心回転させてマスク本体を略円軌道に沿って周回させて振り回すと、気化熱が奪われてマスク本体の温度が下がり、冷感が得られるので、着用時の息苦しさや不快感が改善する。またマスク本体に指で触れることなく振り回して冷却できるので、マスク本体を不用意にウィルスや菌で汚染させずに済む。またマスク本体の左端部と右端部の縦方向に沿って各々、弾性を有する形態保持部材を付設したので、衛生マスクを冷却するため振り回してもマスク本体が丸まってしまうことはなく、着用前に手で広げる手間が省ける。

40

**【図面の簡単な説明】****【0006】**

【図 1】本考案に係る衛生マスクの正面図である（実施例 1）。

【図 2】図 1 のマスクの使用方法の説明図である。

【図 3】図 1 のマスクの使用方法の説明図である。

【図 4】図 1 のマスクの使用方法の説明図である。

50

## 【考案を実施するための最良の形態】

## 【0007】

以下、本考案の最良の形態を実施例に基づき説明する。

## 【実施例1】

## 【0008】

図1を参照して本考案の一実施例を説明する。図1は本考案に係る衛生マスクの正面図である。

図1において、1は衛生マスクであり、この内、2は全体が接触冷感用繊維素材を編んだ生地を縫製して形成されたマスク本体であり、このマスク本体2は口と鼻を覆うことのできる略方形で通気性を有している。3と4はマスク本体の左端部と右端部に設けられた紐通し部、5と6は紐通し部3と4に別個に挿通された繊維素材、ゴム素材等で形成された左耳用耳掛け紐と右耳用耳掛け紐である。左耳用耳掛け紐5と右耳用耳掛け紐6は各々、紐通し部3と4の中で上下に移動可能とした状態としても良く、紐通し部3と4に挿通後、縫着して移動不能としても良い。7と8は左耳用耳掛け紐5と右耳用耳掛け紐6の途中を8の字状に留める留め具であり、内部に形成した2つの紐挿通孔7aと7b、8aと8bに、左耳用耳掛け紐5、右耳用耳掛け紐6の2本ずつの紐部5aと5b、6aと6bが挿通されている。留め具7、8の左耳用耳掛け紐5、右耳用耳掛け紐6に対する留め位置をスライドして変えることで、耳掛け用の大輪部9、10の大きさを調節可能になっている。11と12はマスク本体2の左端部と右端部の内部または外部に縦方向に沿って付設された各々、弾性を有する細長板状または細長棒状でプラスチック製の形態保持部材である。形態保持部材11、12は外力が加わると変形するが、外力が無くなると元の形状に戻ることで、マスク本体2が左右方向に延びた軸線の周りに丸まるのを防止する機能を有する。

## 【0009】

マスク本体2を形成する接触冷感用繊維素材は冷感タオル等に用いられている接触冷感機能を有する特殊繊維素材であり、水で濡らしたあと、絞って振ると気化熱が奪われて温度が下がる性質を有する。なお、マスク本体2の全部を接触冷感用繊維素材で形成しても良く、あるいは、マスク本体2の内、着用者の少なくとも口元周りが接触する部分を含む一部を接触冷感用繊維素材で形成しても良い。

## 【0010】

次に図2乃至図4を参照して上記した実施例の作用を説明する。

衛生マスク1を着用して出かける際、家でマスク本体2を水で濡らし、清潔な手で絞る。そして、左耳用耳掛け紐5の留め具7の外側の小輪部13を左手の指20で掴み、右耳用耳掛け紐6の留め具8の外側の小輪部14を右手の指21で掴み(図2参照)、小輪部13と14を左右同期して左右の手の指20、21を結ぶ方向に延びた軸線Lの周りに素早く偏心回転させる(図3参照)。すると、マスク本体2は自身の質量に働く遠心力により大きな径の略円軌道に沿って高速に周回し、気化熱が奪われて温度が下がる。或る適当な時間だけ周回させたところで、小輪部13と14の偏心回転を止める。

## 【0011】

マスク本体1の周回により、左右の大輪部9、10が細長く伸びたり、撚りが掛かったりしてマスク本体2には左右方向に延びた軸周りに丸めようとする力が働くが、弾性を有する形態保持部材11、12の変形反力により、マスク本体2の丸まりが抑制される。回転が終わると、形態保持部材11、12の復元力によりマスク本体2が自然に元の略方形に戻るため、着用前にマスク本体2を手で広げる手間が省ける。またマスク本体2に指で触れることなく振り回して冷却できるので、不用意にウィルスや菌で汚染させずに済む。大輪部9、10に掛かった撚りは、小輪部13と14を左右方向外側へ引っ張ることで、撚りが戻る方向にマスク本体2を回転させ、撚りを戻せば良い(図4参照)。

このあと、大輪部9を左耳、大輪部10を右耳に掛け、マスク本体2により口元と鼻を覆う。マスク本体2の接触冷感機能により、着用者は冷感を得ることができ、夏場で気温が高かったり、直射日光が当たったりしたときの、息苦しさや不快感が改善する。

## 【0012】

しばらく装着している間に冷感が感じられなくなったならば、小輪部13と14を左右の手で掴んで顔から衛生マスク1を外し、汗でマスク本体2が水分を含んでいるときはそのまま前述と同様にして、小輪部13と14を左右同期して軸線Lの周りに素早く偏心回転させる。すると、マスク本体2の質量に働く遠心力により大きな径で高速に周回し、気化熱が奪われてマスク本体2の温度が下がる。適当な時間だけ周回させたところで、小輪部13と14の偏心回転を止める。回転が終わると、マスク本体2は自然に元の略方形に戻るので、手で広げる手間が省ける。またマスク本体2に指で触れることなく振り回して冷却できるので、不用意にウイルスや菌で汚染させずに済む。大輪部9、10に掛かった擦りは、小輪部13と14を左右方向外側へ引っ張ることで、擦りが戻る方向にマスク本体2を回転させ、擦りを戻せば良い(図4参照)。

10

なお、マスク本体2を周回させる際、左右の手の指20、21で左右の小輪部13、14を掴む以外に、左右の小輪部13、14と左右の留め具7、8と一緒に掴んだり、左右の大輪部9、10の留め具7、8寄りを掴んだり、左右の大輪部7、8と左右の留め具7、8と一緒に掴んで回すようにしても良く、要は、左耳用耳掛け紐5の途中または端部と、右耳用耳掛け紐6の途中または端部を各々、左右の手の指20、21で掴み、左右の手の指20、21を結ぶ方向に延びた軸線Lの周りに、左耳用耳掛け紐5、右耳用耳掛け紐6を掴んだ指20、21を偏心回転させてマスク本体2を略円軌道に沿って周回させれば良い。

20

## 【0013】

この実施例によれば、マスク本体2を接触冷感用繊維素材により形成するとともに、マスク本体2の左右端部の縦方向に沿って各々、弾性を有する形態保持部材11、12を付設したことにより、夏場や梅雨の時期などで、水、汗等の水分を含んだ衛生マスク1の左耳用耳掛け紐、右耳用耳掛け紐5、6の途中または端部を各々、左右の手の指13、14で掴み、左右の手の指20、21を結ぶ方向に延びた軸線(図3のL参照)の周りに、左耳用耳掛け紐5、右耳用耳掛け紐6を掴んだ指20、21を偏心回転させてマスク本体2を略円軌道に沿って周回させて振り回すと、気化熱が奪われてマスク本体2の温度が下がり、冷感が得られるので、着用時の息苦しさや不快感が改善する。

また衛生マスク1の左耳用耳掛け紐5、右耳用耳掛け紐6の途中または端部を各々、左右の手の指20、21で掴み、左右の手の指20、21を結ぶ方向に延びた軸線(図3の符号L参照)の周りに、左耳用耳掛け紐5、右耳用耳掛け紐6を掴んだ指20、21を偏心回転させてマスク本体2を前記軸線L周りの略円軌道に沿って周回させることにより、マスク本体2に指で触れることなく振り回して冷却できるので、マスク本体2を不用意にウイルスや菌で汚染させずに済む。

30

またマスク本体2の左右端部の内部または外部に縦方向に沿って各々、弾性を有する形態保持部材11、12を付設したので、衛生マスク1を冷却するため振り回してもマスク本体2が丸まってしまうことはなく、着用前にマスク本体2を手で広げる手間が省ける。

## 【0014】

なお、上記した実施例ではマスク本体を方形としたが、立体型、ブリーツ型等の他の形状であっても良い。また、留め具は省略しても良い。

40

また、マスク本体の全部を接触冷感用繊維素材で形成したが、マスク本体の内、とくに口元周りと接触する部分を含む一部を接触冷感用繊維素材で形成しても良い。

また、マスク本体にフィルターを入れるフィルター収納部を設けても良い。

## 【産業上の利用可能性】

## 【0015】

本考案は、夏場、湿度の高い場所をはじめ、様々な状況下でウイルス・細菌の感染対策・塵埃の吸引対策等のために着用する衛生マスクに適用可能である。

## 【符号の説明】

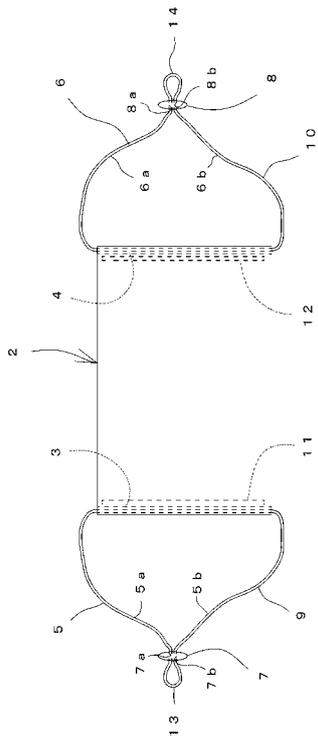
## 【0016】

1 衛生マスク

50

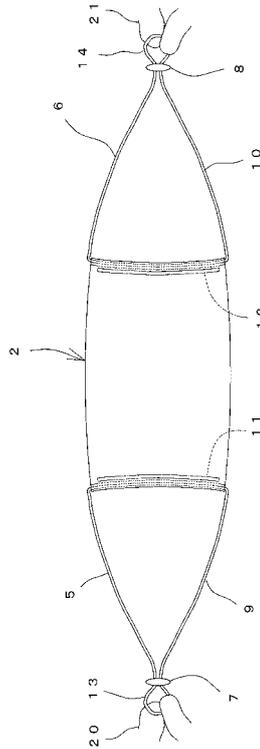
- 2 マスク本体
- 5 左耳用耳掛け紐
- 6 右耳用耳掛け紐
- 1 1、1 2 形態保持部材

【図 1】



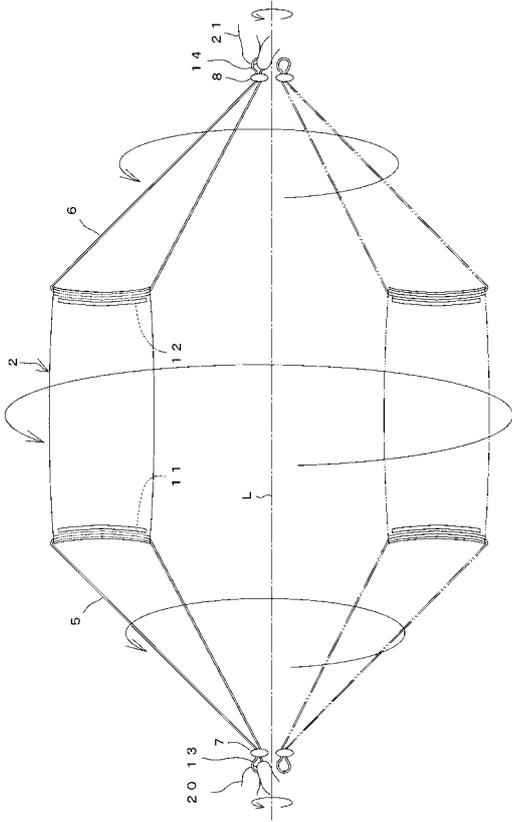
1

【図 2】



1

【 図 3 】



【 図 4 】

